

介護支援ボランティア制度

「せわあない会てごなかま」ボランティア参加者の募集について

「せわあない会てごなかま」は、介護保険施設等で行うボランティアの制度です。

65歳以上の皆様が、ボランティア（てご活動）を通し、楽しみながら介護予防に取り組み、生きいきとした地域づくりを目指して実施します。

参加してみたい方、興味を持たれた方は下記までご連絡ください。

【参加できる人】

町内の65歳以上の人
(鏡野町介護保険第1号被保険者)

【てご活動の場所】

町内の介護保険施設等
(『てごなかま受入事業所』も募集中です。)

【てご活動の内容】

ー介護保険施設の例ー
○レクリエーションや行事の手伝い
○利用者の話し相手
○利用者等への芸能披露
○食事の配膳・下膳
○散歩や外出の手伝い
○洗濯物の整理
○施設内の清掃や草取り など

【参加の流れ】

- ①登録申請をして、ボランティア手帳（てご帳）を受け取ります。（申請場所：保健福祉課）
- ②『てごなかま受入事業所』と、日時・活動内容等打ち合わせをします。
- ③『てご活動』を行い、受入事業所で『てご帳』にスタンプを押してもらいます。
※スタンプ1時間につき1個、1日2個まで
- ④たまったスタンプを、保健福祉課で転換交付金に交換します。
※スタンプ1個を1点(100円)とし、1年度当たり50点(5,000円)まで交換できます。
※転換交付金への交換は介護保険料の滞納がない方に限ります。

コラムでスタディ!

「在宅医療・介護連携事業推進協議会」では、住みやすい地域づくりを目指して活動を進めています。

「鏡野町の地域包括ケアシステムを築くために」

在宅医療・介護連携事業推進協議会システム部会長
藤本宗平(苫田郡医師会副会長)

2025年には65歳以上の高齢者のうち、5人に1人が認知症に罹患すると言われています。そこで急がれている認知症対策を通じて、鏡野町の地域包括ケアシステムを築くことになりました。幸いにも鏡野町内には、様々な機能を持った医療機関と介護保険事業所が多数あります。そこには多くの医療介護の専門職が働いています。

鏡野町の地域包括ケアシステムを築くために、なぜ認知症が選ばれたか。

①鏡野町内のすべての医療介護専門職がすでに認知症の患者、利用者の治療介護を行ない対応に直面しながらも経験を積んでいる。

②認知症は地域医療介護が対象とする、多くの疾病と共通した課題があり、診断から人生の最終段階までの対策モデルとなる。

③認知症こそ人の尊厳を支える医療介護の本質を再確認し、尊厳ある対応を期待されている。

④認知症対策は、地域社会のすべての企業、団体、住民が支え、参加しなければならない。まさに、地域包括ケアシステムそのものである。

システム部会、研修部会、普及啓発部会、認知症部会を組織して活動を本格化している鏡野町在宅医療・介護連携事業推進協議会は、苫田郡医師会をはじめ行政、医療介護施設、ボランティア団体など多職種平等の精神で協力し、粉骨碎身の覚悟で鏡野町の地域包括ケアシステムを築きます。すべての町民のみならず、ご協力をお願いいたします。



No.2



お問い合わせ先

鏡野町保健福祉課 介護保険係

電話(0868)54-2986